





「ラッカセイ」は砂地の新規作物として試験栽培されています



石狩市農業総合支援センターの試験圃場 ほじょう 八幡町

ここでは石狩のブランドとなる新たな農産物を探して、J A いしかり地物市場「とれのさと」で消費者の反応も見ながら、ハマボウフウやショウガ、ラッカセイなど約200品種の栽培に取り組んでいました。



卵を扱うように優しく掘り起こしてください

「いしかり農産物エキスパート養成事業」ってナニ?

石狩で作られる農産物や石狩農業への理解を広げることを目的に、平成25年度からスタートした事業。「いしかり食と農のカレッジ」の中の、レベルアップ講座「マイスターコース」として位置づけられていて、現在13人の方が2期生として参加しています。6月から翌年3月まで月1回開催し、実習を豊富に取り入れた「体験型講座」が特長です。

平成26年度 講座スケジュール

- 6月 ブロッコリー(ハウス見学&調理実習)
- 7月 厚田メロン&浜益サクランボ(農園見学)
- 8月 ニンジン(畑見学&調理実習)
- 9月 ミニトマト(収穫体験&試食&座学)
- 10月 絹サヤエンドウ(収穫体験&農業関連施設の見学)
- 11月 長イモ(収穫体験&調理実習)
- 12月 札幌大球(ニンジン漬けづくりの見学)
- 1月 大豆(味噌作り)
- 2月 チコリ(ハウス見学&調理実習)
- 3月 「いしかり農産物検定試験」の実施



今までスーパーで野菜を買うとき、安さを基準に選んでいましたが、厚田メロンの講座を受講し、どうしてメロンが高いのか理解できて、以来、産地や鮮度を重視して買うようになりました。私は子どもがいるので、こういう講座が子育て世代に向けてあっていいなと思いました。子どもも自然と石狩に興味を持つような気がします。

もっと知りたい!



1期生 秋田谷 順子さん

また、期待される野菜を提供し、消費者ニーズを把握し、期待に応える必要があります。また、期待される野菜を提供し続けるには、後継者の育成が重要で、そのためには、経営を安定させなければなりません。

石狩市ではサヤエンドウ、ブロッコリー、ミニトマトなどの生産に取り組んでおり、これらの安定生産体制づくりが農業経営安定の要となります。もちろん、こうした野菜に取り組むためには地元の方の協力が欠かせません。例えばグリーンサポーター(農作業の短期アルバイト)に登録してもらうとか、地元のもの積極的に買ってもらうとか。前者は直接的に、後者は間接的にそれぞれ地元農業をバックアップすることになるでしょう。

そのためにもまずは石狩の農業を知ってもらうことが肝心で、それを分かりやすくお伝えするのが私たちの役目です。11月には生産者も参加するイベント(7ページ参照)があり、私も参加します。ぜひこの機会に皆さんも、一緒に石狩の農業について考えてみませんか!

石狩の農業についてお伝えします!



石狩市農業総合支援センター 白澤 茂明さん